

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成23年9月8日 (2011.9.8)

【公表番号】特表2010-534576(P2010-534576A)

【公表日】平成22年11月11日 (2010.11.11)

【年通号数】公開・登録公報2010-045

【出願番号】特願2010-518328(P2010-518328)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

B 3 2 B 27/28 (2006.01)

B 2 9 C 61/06 (2006.01)

B 6 5 D 65/40 (2006.01)

B 6 5 D 81/24 (2006.01)

B 6 5 D 30/02 (2006.01)

B 2 9 K 29/00 (2006.01)

B 2 9 L 7/00 (2006.01)

B 2 9 L 9/00 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/32 1 0 1

B 3 2 B 27/28 1 0 1

B 2 9 C 61/06

B 6 5 D 65/40 D

B 6 5 D 81/24 D

B 6 5 D 30/02

B 2 9 K 29:00

B 2 9 L 7:00

B 2 9 L 9:00

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月22日 (2011.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A) エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマー、前記コポリマーのアイオノマー、ポリエステル、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含む構造層と、

B) エチレンビニルアセテートコポリマー、エチレンアルキルアクリレートコポリマー、エチレンアルキルメタクリレートコポリマー、ポリエチレン、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含むヒートシール層と、

C) 少なくとも 1 つのエチレンビニルアルコールコポリマーを含むガスバリア層であって、前記エチレンビニルアルコールコポリマーが、ポリマー鎖中に存在する約 2 ~ 約 8 モル%の 1, 2 グリコール構造単位を有し、前記構造層と前記ヒートシール層との間に配置されるガスバリア層と

を含む多層延伸熱収縮性フィルムであって、

前記フィルムが、少なくとも 1 分間 85 の温度への前記フィルムの初期暴露時にその元

のサイズよりも少なくとも 25% 小さいサイズに収縮することができることを特徴とする、多層延伸熱収縮性フィルム。

【請求項 2】

A) エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマー、前記コポリマーのアイオノマー、ポリエステル、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含む構造層と、

B) エチレンビニルアセテートコポリマー、エチレンアルキルアクリレートコポリマー、エチレンアルキルメタクリレートコポリマー、ポリエチレン、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含むヒートシール層と、

C) 少なくとも 1 つのエチレンビニルアルコールコポリマーを含むガスバリア層であって、前記構造層と前記ヒートシール層との間に配置されるガスバリア層と

を含む、延伸多層フィルムを含む収縮バッグであって、

前記フィルムが、少なくとも 1 分間 85 の温度への前記フィルムの初期暴露時にその元のサイズよりも少なくとも 25% 小さいサイズに収縮することができることを特徴とする、収縮バッグ。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の多層フィルムから形成された物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0106

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0106】

表 5

封止温度	ヒートシールのピーク、gm/25mm					
°C	実施例 1		実施例 2		実施例 3	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
90	0		0		1307	649
100	1648	602	3477	314	4728	391
110	4038	147	4189	119	4880	47
120	4984	442	4716	1138	4768	515
130	4995	717	5902	350	5299	609
140	5008	6	5837	461	5271	237
	熱間粘着性、N/25mm					
80	1.1	0.18	1.0	0.10	0.9	0.22
90	1.4	0.17	1.6	0.04	0.9	0.08
100	3.4	0.14	3.7	0.10	2.3	0.27
110	2.2	0.17	2.1	0.15	1.6	0.27
130			1.1	0.15	0.9	0.03

次に、本発明の態様を示す。

1. A) エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマー、前記コポリマーのアイオノマー、ポリエステル、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含む構造層と、

B) エチレンビニルアセテートコポリマー、エチレンアルキルアクリレートコポリマー、エチレンアルキルメタクリレートコポリマー、ポリエチレン、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含むヒートシール層と、

C) 少なくとも 1 つのエチレンビニルアルコールコポリマーを含むガスバリア層であっ

て、前記エチレンビニルアルコールコポリマーが、ポリマー鎖中に存在する約 2 ～ 約 8 モル % の 1, 2 グリコール構造単位を有し、前記構造層と前記ヒートシール層との間に配置されるガスバリア層と

を含む多層延伸熱収縮性フィルムであって、

前記フィルムが、少なくとも 1 分間 85 の温度への前記フィルムの初期暴露時にその元のサイズよりも少なくとも 25 % 小さいサイズに収縮することができることを特徴とする、多層延伸熱収縮性フィルム。

2. 二軸延伸される、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

3. 前記 $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸がアクリル酸またはメタクリル酸である、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

4. エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸との前記コポリマーが、少なくとも 1 つの他のコモノマーの共重合単位をさらに含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

5. 前記構造層が、エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマーのアイオノマーを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

6. 前記構造層がポリエステルを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

7. 前記構造層がアイオノマーを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

8. 前記ヒートシール層がエチレンビニルアセテートコポリマーを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

9. 前記ヒートシール層が、エチレンアルキルアクリレートコポリマーおよびエチレンアルキルメタクリレートコポリマーからなる群から選択されるコポリマーを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

10. 前記ヒートシール層がポリエチレンを含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム

。

11. 1) a) 無水物改質ポリマー、b) エチレンと、 $C_4 - C_8$ 不飽和無水物、少なくとも 2 個のカルボン酸基を有する $C_4 - C_8$ 不飽和酸のモノエステル、少なくとも 2 個のカルボン酸基を有する $C_4 - C_8$ 不飽和酸のジエステルからなる群から選択されるコモノマーとの共重合単位を含むコポリマーおよび c) それらの混合物からなる群から選択される少なくとも 1 つの官能化ポリマー成分と、

2) エチレンと、ビニルアセテート、アルキルアクリレート、アルキルメタクリレートおよびそれらの混合物（前記アルキル基が 1 ～ 10 個の炭素原子を有する）からなる群から選択されるコモノマーとの共重合単位を含む、前記官能化ポリマー成分と化学的に異なるエチレンコポリマーと、場合により、

3) 粘着付与剤樹脂と

を含む、接着剤層をさらに含む上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

12. 二軸延伸される、上記 11 に記載の多層熱収縮性フィルム。

13. 付加的な層を含む、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

14. 前記付加的な層の少なくとも 1 つがタイ層である、上記 11 に記載の多層熱収縮性フィルム。

15. チューブの形態の上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

16. 前記構造層が前記ガスバリア層に隣接および接触している、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

17. 前記ヒートシール層が前記ガスバリア層に隣接および接触している、上記 1 に記載の多層熱収縮性フィルム。

18. A) エチレンと $C_3 - C_8$, - エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマー、前記コポリマーのアイオノマー、ポリエステル、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含む構造層と、

B) エチレンビニルアセテートコポリマー、エチレンアルキルアクリレートコポリマー、エチレンアルキルメタクリレートコポリマー、ポリエチレン、およびそれらのブレンドからなる群から選択されるポリマーを含むヒートシール層と、

C) 少なくとも1つのエチレンビニルアルコールコポリマーを含むガスバリア層であって、前記構造層と前記ヒートシール層との間に配置されるガスバリア層とを含む、延伸多層フィルムを含む収縮バッグであって、前記フィルムが、少なくとも1分間85の温度への前記フィルムの初期暴露時にその元のサイズよりも少なくとも25%小さいサイズに収縮することができることを特徴とする、収縮バッグ。

19. 前記構造層がエチレンとC₃-C₈、-エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマーを含み、前記酸がアクリル酸またはメタクリル酸である、上記18に記載の収縮バッグ。

20. 前記構造層がエチレンとC₃-C₈、-エチレン性不飽和カルボン酸とのコポリマーのアイオノマーを含む、上記18に記載の収縮バッグ。

21. 前記構造層がポリエステルを含む、上記18に記載の収縮バッグ。

22. 1) a) 無水物改質ポリマー、b) エチレンと、C₄-C₈不飽和無水物、少なくとも2個のカルボン酸基を有するC₄-C₈不飽和酸のモノエステル、少なくとも2個のカルボン酸基を有するC₄-C₈不飽和酸のジエステルからなる群から選択されるコモノマーとの共重合単位を含むコポリマーおよびc) それらの混合物からなる群から選択される少なくとも1つの官能化ポリマー成分と、

2) エチレンと、ビニルアセテート、アルキルアクリレート、アルキルメタクリレートおよびそれらの混合物(前記アルキル基が1~10個の炭素原子を有する)からなる群から選択されるコモノマーとの共重合単位を含む、前記官能化ポリマー成分と化学的に異なるエチレンコポリマーと、場合により

3) 粘着付与剤樹脂とを含む、接着剤層をさらに含む上記18に記載の収縮バッグ。

23. 前記エチレンビニルアルコールポリマーが、ポリマー鎖中に存在する約2~約8モル%の1,2グリコール構造単位を有する、上記18に記載の収縮バッグ。

24. 前記多層フィルムが付加的な層を含む、上記18に記載の収縮バッグ。

25. 前記多層フィルムが二軸延伸フィルムである、上記18に記載の収縮バッグ。

26. 上記1に記載の多層フィルムから形成された物品。